「だってキャバ嬢って楽に稼げる仕事ですから」
――キャバクラ嬢の階層戦略のインタビュー・データ分析――

成蹊大学　小林盾

【1．目的】

この報告の目的は，キャバクラ嬢がどのような階層戦略を用いて，仕事を地位達成に活用しているのかを解明することにある．先行研究によれば，キャバクラ嬢は収入にくわえ，「客から承認されている」という感覚が得られるという．しかし，なかには「承認感を得られない人」や「必要としない人」もいるかもしれない．　そのためここでは，合理的選択理論の立場から，キャバクラ嬢が仕事から（コミュニケーション力，美意識，飲酒，忍耐力などの）人的資本や，（情報，人脈，恋人などの）社会関係資本を得るだろうと仮説をたてる．さらに，キャバクラ嬢には，仕事から承認感を得る人もいるが，得ない人もいるだろうという仮説をたて，検証する．

【2．方法】

そこで，データとしてキャバクラ嬢経験者の女性 8 人，キャバクラ嬢非経験者の女性 2 人，店員または客としてキャバクラを経験した男性 4 人に，2018 年 3 月から 11 月にかけて，筆者が半構造化インタビューを実施した．キャバクラ嬢経験者には「仕事をはじめた目的，きっかけ」「働き方」「仕事で得たもの，失ったもの」「承認感はあったか」「仕事経験がその後役だったか」「同僚や客との関係」「将来の夢」などを聞いた．承認感を得た人の典型として H さん，得なかった人の典型として B さんにとくに着目し，それぞれの語りを分析する．

【3．結果】

分析の結果，2 つの仮説は支持されたといえる．B さん（女性，20 代前半，未婚）は，現役の専業キャバクラ嬢であり，承認感はまったく得ていなかった．新宿歌舞伎町で 1 つの店に 4 年間勤務しつづけ，現在は週 4 回ほど，3 時間くらいずつ勤務している．収入が月 100 万円ほどで，誕生月など多いと 300 万円ほどである．仕事を通して成長したかを質問すると，「成長はしないでしょ．だってキャバ嬢って楽に稼げる仕事ですから」とのことだった．　たいして，H さん（女性，20 代後半，未婚）は，現役の兼業キャバクラ嬢として勤務し，仕事から承認感を獲得していた．これまで 10 店以上を経験し，通算 5 年間ほど勤務した．収入には幅があり，月 10 万円から 70 万円ほどである．承認感はあったかと質問すると，「ありました．わざわざお金つかって会いにきてくるってことで，認めれたんだって」との回答だった．

【4．結論】

以上から，（詳細は省略したが）対象者のすべてのキャバクラ嬢が，（コミュニケーション力，美意識，飲酒，忍耐力などの）人的資本と（情報，人脈，恋人などの）社会関係資本を得ていると語った．ただし，承認感は獲得したと語る人とそうでないという人がいた．したがって，キャバクラ嬢という仕事に，承認感といういわばロマンチックな報酬だけでなく，資本獲得というしたたかな合理性も潜むことが明らかになった．　キャバクラ嬢については一般書や，キャバクラ嬢による書籍が多数ある．しかし，この報告のように統一的な理論的パースペクティブからキャバクラ嬢の階層戦略を分析したものは，これまでなかった．

文献

小林盾，2019，「『だってキャバ嬢って楽に稼げる仕事ですから』：合理的選択理論によるキャバクラ嬢のインタビュー・データ分析」『成蹊人文研究』27．